



序章

はじめに

01 | 計画策定の背景と目的

近年、観光を取り巻く環境は大きく変化しています。新型コロナウイルス感染症の影響から回復が進む中、国内旅行の需要が回復するとともに、訪日外国人旅行者数は過去最高水準を更新するなど、国内外の人の往来が一層活発化しています。

また、従来の団体旅行を中心とした観光の在り方から、個人や少人数による旅行が主流となり、体験や滞在の観光を通じて、地域の自然、歴史、文化、暮らしといった魅力を深く味わう動きが広がっています。環境への配慮や地域社会との共生を重視した持続可能な観光の実現は、国内外において共通する重要なテーマとなっています。

このような社会情勢の変化を背景に、観光は単なる交流人口の拡大や消費の創出にとどまらず、地域の価値を高め、市民の暮らしや地域経済を支える重要な役割を担う分野として位置付けられます。

本市におきましても、これまでの「観光客を誘致する」取組に加え、観光を通じて市民の生活の質の向上や地域産業の活性化、地域への誇りの醸成につなげていく「観光を軸とした地域マネジメント」の視点が、これまで以上に重要となっていることから、市民、事業者、観光に関係する団体、行政がそれぞれの役割を担いながら連携し、本市の将来を見据えた観光地域づくりを進めていくことが求められています。

このたび策定する「第4次甲府市観光振興基本計画」は、今後5年間に於いて本市が目指す観光振興の方向性と、その実現に向けた取組を示しています。

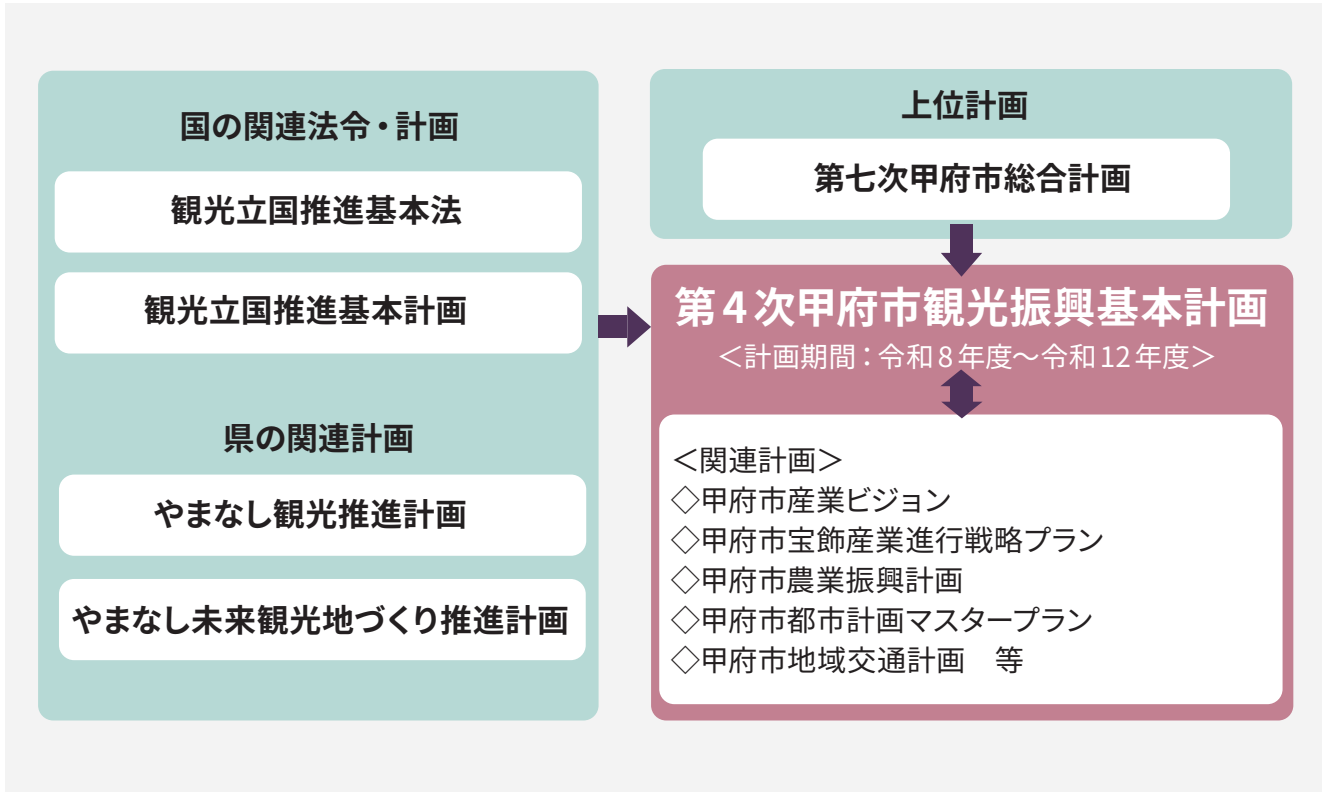
本計画では、本市が世界に誇る宝飾産業をはじめ、「日本遺産 御嶽昇仙峡」に代表される豊かな自然、1200年の歴史を有する本市唯一の温泉街「信玄の湯 湯村温泉」、さらには四季を通じて育まれる農産物や、地域の風土に根差した食文化など、本市ならではの多様で魅力ある地域資源を最大限に活かしながら、「人とまちが共に輝く山の都」の実現を目指します。

02 | 計画の位置付け

本市では、令和2年度に策定した「第3次甲府市観光振興基本計画」(以下「前計画」という)に基づき、新型コロナウイルス感染症の影響により観光需要が大きく落ち込む中であっても、観光の再生と持続的な発展を目指した取組を進めてきました。前計画では、地域資源を活かした付加価値の高い観光コンテンツや周遊プランの造成に向けて、観光事業者や地域団体、行政が連携して取り組む体制づくりを進めるとともに、来訪者が市内を回遊し、賑わいを感じられる観光地づくりを目標に各施策を展開してきました。

本計画では、こうした前計画に基づく取組の成果や課題を検証するとともに、インバウンド需要の拡大や旅行形態の変化、持続可能な観光への関心の高まりなど、近年の観光を取り巻く社会環境の変化を踏まえ、現状や課題を整理・分析します。その上で、令和8年度を初年度とする「第七次甲府市総合計画」に掲げる基本目標や観光分野に関する施策の方向性と整合を図りながら、今後5年間に於いて本市が重点的に取り組むべき観光振興の方向性を示す「第4次甲府市観光振興基本計画」を策定します。

◆計画の位置付け



03 | 計画の期間

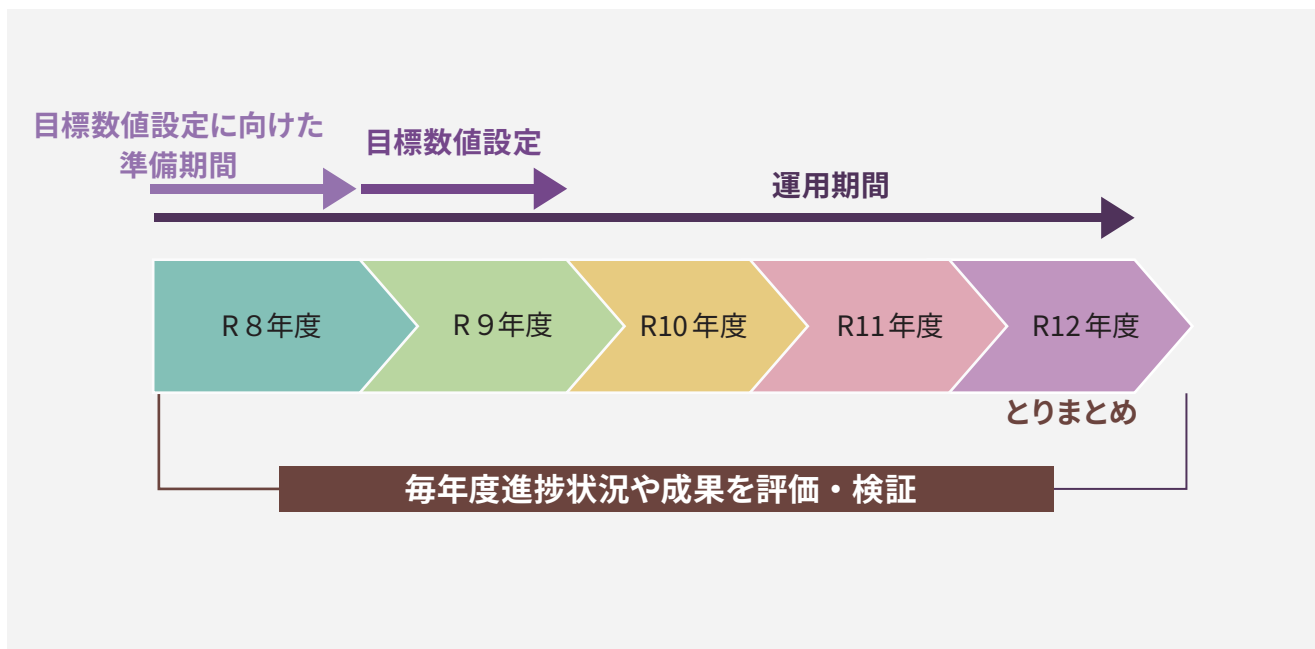
本計画の期間は、令和8年度から令和12年度までの5年間とします。

計画に定める施策及び具体的な取組については、毎年度、その進捗状況や成果を評価・検証し、社会情勢や観光を取り巻く環境、市民意向等を踏まえながら、必要に応じて見直しを行います。

また、本計画における数値目標（KGI※1及びKPI※2、重要指標）については、目標項目を本計画において定めます。

一方、目標数値については、新たな調査によるデータ収集が必要であることや、令和8年度を初年度とする「第5次観光立国推進基本計画」と整合の取れた数値とする必要があることから、令和8年度を目標数値設定に向けた準備期間と位置付け、令和9年度に設定します。

◆計画の期間



※1：KGI (Key Goal Indicator：重要目標達成指標)

甲府市の観光振興において最終的に達成したいゴールを数値で表した指標

※2：KPI (Key Performance Indicator：重要業績評価指標)

最終的な目標 (KGI) 達成に向け事業が順調に進んでいるかを測るための中間目標・数値指標

